

河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕
基本調査マニュアル 改定案
(短期対応分)

目 次

- 「文献調査（調査概要の整理）を廃止し、アドバイザー等専門家からの聞き取り調査で代替する。」（対象：全分類群）
*今回は魚類のみサンプルとして掲載する。
..... 1
- 「特別の理由がない限り、原則2回とする。（現行は2回以上）」（対象：魚類）
..... 7
- 「水質調査に統合することを基本とし、調査頻度は現行のものを踏襲する。」（対象：動植物プランクトン）
..... 8
- 「前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事が無い場合は、前回の構造物情報をそのまま活用し、構造物調査（文献調査、現地調査）を省略する。」
（対象：ダム湖環境基図）
..... 9

河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] (基本調査) マニュアル (案) (魚類 1/5)

青字：現行マニュアルの中で、改定案では削除された部分を示す。
 赤字：改定案の中で、現行マニュアルから追加・変更した部分を示す。

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案
1. 調査概要	<p>1.4 調査内容 本調査では、現地調査を中心に文献調査等も行う。現地調査は、投網、刺網、タモ網等による捕獲を実施する。</p> <p>1.6 調査手順 本調査の手順は図 1.1 に示す通りである。</p> <div data-bbox="362 590 1371 953" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事前調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献調査 ・聞き取り調査 ・漁業実態等の整理 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">(以下、省略)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【事前調査様式】</p> <p>魚類 既往文献一覧表</p> <p>魚類 文献概要記録票</p> <p>魚類 助言・聞き取り等調査票</p> <p>回遊性魚類の遡上・降河</p> <p>魚類へい死一覧表</p> <p>漁業実態調査票</p> <p>魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表</p> <p>漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">図 1.1 魚類調査の手順</p>	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献調査(調査概要の整理)を廃止する。(短期対応) (メリット) ・コスト削減になる。 (デメリット) ・重要種、外来種、その他のトピックなどの文献情報を踏まえずに調査することになる可能性がある。 (デメリットの緩和策) ・聞き取り調査時に河川水辺の国勢調査アドバイザー等の専門家から最新の情報を提供頂き補完する。 ・その際、調査会社は、前回調査時の既往文献及びその後発行された文献で調査と関係ある文献の一覧をわかる範囲でとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。(短期対応) ・また、文献調査を廃止する代わりに、既往の文献調査結果(調査地点と確認種の情報)を簡単に参照できるデータベースを構築する。(中期対応) 	<p>1.4 調査内容 本調査では、現地調査を中心に聞き取り調査も行う。現地調査は、投網、刺網、タモ網等による捕獲を実施する。</p> <p>1.6 調査手順 本調査の手順は図 1.1 に示す通りである。</p> <div data-bbox="2000 611 2822 974" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事前調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査 ・漁業実態等の整理 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">(以下、省略)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【事前調査様式】</p> <p>魚類 既往文献一覧表</p> <p>魚類 助言・聞き取り等調査票</p> <p>回遊性魚類の遡上・降河</p> <p>魚類へい死一覧表</p> <p>漁業実態調査票</p> <p>魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表</p> <p>漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">図 1.1 魚類調査の手順</p>

河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] (基本調査) マニュアル (案) (魚類 2/5)

青字：現行マニュアルの中で、改定案では削除された部分を示す。
赤字：改定案の中で、現行マニュアルから追加・変更した部分を示す。

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案
2. 事前調査	<p>現地調査を行う前に、既往文献を整理するとともに、聞き取り調査を実施することにより、調査区域における魚類の生息状況を中心とした諸情報をとりまとめる。</p> <p>現地調査を年度初めに実施する場合には、事前調査を現地調査実施の前年度に行うと、現地調査を円滑に実施しやすい。</p> <p>また、文献収集及び聞き取り相手の選定にあたっては、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の学識経験者の助言を得るようにする。</p> <p>なお、これまでに河川水辺の国勢調査が実施されたダムにおいては、前回調査以降の状況について、特に注意して整理、把握する。</p> <p>2.1 文献調査</p> <p>文献調査では、既往の河川水辺の国勢調査成果、河川水辺総括資料、ダム等管理フォローアップ年次報告書・定期報告書、前回調査以降に出版・発行された文献等を収集し、調査区域における魚類の生息状況についての情報を中心に整理する。</p> <p>なお、文献の収集にあたっては、調査区域に限定せず、当該水系全体に係る文献を可能な限り原典（コピーでも可）で収集するものとする。ただし、前回調査を実施している場合は、前回調査以降の文献のみを収集すればよい。収集した文献及び報告書について、下記の項目を整理する。（事前調査様式 1 及び 2）</p> <p>また、前回調査以降に実施された魚類以外の河川水辺の国勢調査において、「その他の生物の記録」として、魚類の確認記録がある場合は、それらも把握しておく。</p> <p>(ア)収集した文献の文献名、著者名、発行年、発行元、入手先(絶版等により書店等で購入できなかった場合)を整理する。</p> <p>(イ)文献の概要として、調査実施状況（現地調査の時期、場所、回数等、文献調査の場合は整理の対象とした文献等）、調査結果の概要、重要種に関する情報を整理する。なお、重要種の確認位置が特定できる情報に関しては、重要種の保全上、取り扱いに注意する必要があるため、「調査結果の概要」とは区別して整理する。</p> <p>2.2 聞き取り調査</p> <p>聞き取り調査では、河川水辺の国勢調査アドバイザーをはじめとする学識経験者等専門家に聞き取りを行い、調査区域の魚類の生息状況、重要種・特定外来生物の生息状況、確認しやすい時期、繁殖状況等についての情報を中心に整理する。</p> <p>聞き取り先は、調査区域周辺の実態に詳しい機関や個人（河川水辺の国勢調査アドバイザー、博物館、動植物園、大学、水産試験場等研究機関、専門家、漁業協同組合、学校の教員、各種愛好会・同好会等）を対象とし、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の助言を得ながら聞き取り先を選定する。</p> <p>また、聞き取りに際しては、前回の河川水辺の国勢調査の結果等をあらかじめ把握し、できるだけ前回調査以降の状況等について知見が得られるようにする。</p> <p>学識経験者等専門家からの助言内容や聞き取り調査で得られた情報・知見について、下記の項目を整理する。（事前調査様式 3）</p> <p>(ア)現地調査に対する助言の内容：既往調査文献の有無、調査地区・時期の設定、調査方法等に対する助言の内容を記録する。</p> <p>(イ)魚類の生息状況：調査区域及びその周辺における魚類の生息状況、特定外来生物の生息状況、繁殖状況、確認しやすい時期、回遊魚の遡上・降河時期等について得られた情報を記録する。</p> <p>(ウ)重要種に関する情報：重要種の生息状況に関して得られた情報について記録する。なお、重要種の確認位置が特定できる情報に関しては、重要種の保全上、取り扱いに注意する必要があるため、「魚類の生息状況」とは区別して整理する。</p>	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献調査(調査概要の整理)を廃止する。(短期対応) (メリット) コスト削減になる。(デメリット) 重要種、外来種、その他のトピックなどの文献情報を踏まえずに調査することになる可能性がある。(デメリットの緩和策) 聞き取り調査時に河川水辺の国勢調査アドバイザー等の専門家から最新の情報を提供頂き補完する。 その際、調査会社は、前回調査時の既往文献及びその後に発行された文献で調査と関係ある文献の一覧をわかる範囲でとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。(短期対応) また、文献調査を廃止する代わりに、既往の文献調査結果(調査地点と確認種の情報)を簡単に参照できるデータベースを構築する。(中期対応) 	<p>現地調査を行う前に、聞き取り調査を実施することにより、調査区域における魚類の生息状況を中心とした諸情報をとりまとめる。</p> <p>現地調査を年度初めに実施する場合には、事前調査を現地調査実施の前年度に行うと、現地調査を円滑に実施しやすい。</p> <p>また、聞き取り相手の選定にあたっては、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の学識経験者の助言を得るようにする。</p> <p>なお、これまでに河川水辺の国勢調査が実施されたダムにおいては、前回調査以降の状況について、特に注意して把握する。</p> <p>2.1 聞き取り調査</p> <p>聞き取り調査では、河川水辺の国勢調査アドバイザーをはじめとする学識経験者等専門家に聞き取りを行い、調査区域の魚類の生息状況、重要種・特定外来生物の生息状況、確認しやすい時期、繁殖状況等についての情報を中心に整理する。</p> <p>聞き取り先は、調査区域周辺の実態に詳しい機関や個人（博物館、動物園、大学、水産試験場等研究機関、専門家、漁業協同組合、学校の教員、各種愛好会・同好会等）を対象とし、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の助言を得ながら聞き取り先を選定する。</p> <p>また、聞き取りに際しては、前回の河川水辺の国勢調査の結果、前回調査時に参考とした既往文献及びその後に発行された文献の一覧(事前調査様式 1)等を持参し、聞き取り調査の効率化を図るとともに、できるだけ前回調査以降の状況等について知見が得られるようにする。</p> <p>なお、文献の一覧には、既往の河川水辺の国勢調査成果、河川水辺総括資料、ダム等管理フォローアップ年次報告書・定期報告書等についても収集・整理するものとする。また、前回調査以降に出版・発行された文献等についてはインターネット等の文献検索サービス（CiNii（国立情報学研究所）、JST（科学技術振興機構）等）も活用し、収集・整理するものとする。</p> <p>学識経験者等専門家からの助言内容や聞き取り調査で得られた情報・知見について、下記の項目を整理する。（事前調査様式 3）</p> <p>(ア)現地調査に対する助言の内容：既往調査文献の有無、調査地区・時期の設定、調査方法等に対する助言の内容を記録する。</p> <p>(イ)魚類の生息状況：調査区域及びその周辺における魚類の生息状況、特定外来生物の生息状況、繁殖状況、確認しやすい時期、回遊魚の遡上・降河時期等について得られた情報を記録する。</p> <p>(ウ)重要種に関する情報：重要種の生息状況に関して得られた情報について記録する。なお、重要種の確認位置が特定できる情報に関しては、重要種の保全上、取り扱いに注意する必要があるため、「魚類の生息状況」とは区別して整理する。</p>

河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] (基本調査) マニュアル (案) (魚類 3/5)

青字：現行マニュアルの中で、改定案では削除された部分を示す。
赤字：改定案の中で、現行マニュアルから追加・変更した部分を示す。

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案																																																																																																																						
5. 調査結果とりまとめ・考察	<p>5.2 様式集</p> <p>事前調査及び現地調査の結果より事前調査様式、現地調査様式及び整理様式をとりまとめる。事前調査様式、現地調査様式及び整理様式は表 5.1 のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表 5.1 様式一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>様式</th> <th>様式名</th> <th>様式番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">事前調査様式</td> <td>魚類 既往文献一覧表</td> <td>事前調査様式 1</td> </tr> <tr> <td>魚類 文献概要記録票</td> <td>事前調査様式 2</td> </tr> <tr> <td>魚類 助言・聞き取り調査票</td> <td>事前調査様式 3</td> </tr> <tr> <td>回遊性魚類の遡上・降河</td> <td>事前調査様式 4</td> </tr> <tr> <td>魚類へい死一覧表</td> <td>事前調査様式 5</td> </tr> <tr> <td>漁業実態調査票</td> <td>事前調査様式 6</td> </tr> <tr> <td>魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表</td> <td>事前調査様式 7</td> </tr> <tr> <td>漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図</td> <td>事前調査様式 8</td> </tr> <tr> <td rowspan="11">現地調査様式</td> <td>魚類 現地調査票 1</td> <td>現地調査様式 1</td> </tr> <tr> <td>魚類 現地調査票 2</td> <td>現地調査様式 2</td> </tr> <tr> <td>魚類 同定文献一覧表</td> <td>現地調査様式 3</td> </tr> <tr> <td>魚類 写真一覧表</td> <td>現地調査様式 4</td> </tr> <tr> <td>魚類 写真票</td> <td>現地調査様式 5</td> </tr> <tr> <td>魚類 標本管理一覧表</td> <td>現地調査様式 6</td> </tr> <tr> <td>魚類からみた重要な位置情報記録票</td> <td>現地調査様式 7</td> </tr> <tr> <td>魚類 調査実施状況一覧表</td> <td>現地調査様式 8</td> </tr> <tr> <td>魚類 調査地区位置図</td> <td>現地調査様式 9</td> </tr> <tr> <td>魚類 現地調査結果の概要</td> <td>現地調査様式 10</td> </tr> <tr> <td>その他の生物確認状況一覧表</td> <td>現地調査様式 11</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">整理様式</td> <td>魚類 重要種経年確認状況一覧表</td> <td>整理様式 1</td> </tr> <tr> <td>魚類 確認状況一覧表</td> <td>整理様式 2</td> </tr> <tr> <td>魚類 経年確認状況一覧表</td> <td>整理様式 3</td> </tr> <tr> <td>魚類 種名変更状況一覧表</td> <td>整理様式 4</td> </tr> <tr> <td>魚類 ダム湖環境エリア区分別確認状況一覧表</td> <td>整理様式 5</td> </tr> <tr> <td>魚類 確認種目録</td> <td>整理様式 6</td> </tr> <tr> <td>魚類 現地調査確認種について</td> <td>整理様式 7</td> </tr> <tr> <td>今回の調査全般に対するアドバイザー等の所見</td> <td>整理様式 8</td> </tr> </tbody> </table>	様式	様式名	様式番号	事前調査様式	魚類 既往文献一覧表	事前調査様式 1	魚類 文献概要記録票	事前調査様式 2	魚類 助言・聞き取り調査票	事前調査様式 3	回遊性魚類の遡上・降河	事前調査様式 4	魚類へい死一覧表	事前調査様式 5	漁業実態調査票	事前調査様式 6	魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	事前調査様式 7	漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	事前調査様式 8	現地調査様式	魚類 現地調査票 1	現地調査様式 1	魚類 現地調査票 2	現地調査様式 2	魚類 同定文献一覧表	現地調査様式 3	魚類 写真一覧表	現地調査様式 4	魚類 写真票	現地調査様式 5	魚類 標本管理一覧表	現地調査様式 6	魚類からみた重要な位置情報記録票	現地調査様式 7	魚類 調査実施状況一覧表	現地調査様式 8	魚類 調査地区位置図	現地調査様式 9	魚類 現地調査結果の概要	現地調査様式 10	その他の生物確認状況一覧表	現地調査様式 11	整理様式	魚類 重要種経年確認状況一覧表	整理様式 1	魚類 確認状況一覧表	整理様式 2	魚類 経年確認状況一覧表	整理様式 3	魚類 種名変更状況一覧表	整理様式 4	魚類 ダム湖環境エリア区分別確認状況一覧表	整理様式 5	魚類 確認種目録	整理様式 6	魚類 現地調査確認種について	整理様式 7	今回の調査全般に対するアドバイザー等の所見	整理様式 8	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献調査(調査概要の整理)を廃止する。(短期対応) (メリット) ・コスト縮減になる。 (デメリット) ・重要種、外来種、その他のトピックなどの文献情報を踏まえずに調査することになる可能性がある。 (デメリットの緩和策) ・聞き取り調査時に河川水辺の国勢調査アドバイザー等の専門家から最新の情報を提供頂き補完する。 ・その際、調査会社は、前回調査時の既往文献及びその後発行された文献で調査と関係ある文献の一覧をわかる範囲でとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。(短期対応) ・また、文献調査を廃止する代わりに、既往の文献調査結果(調査地点と確認種の情報)を簡単に参照できるデータベースを構築する。(中期対応) 	<p>5.2 様式集</p> <p>事前調査及び現地調査の結果より事前調査様式、現地調査様式及び整理様式をとりまとめる。事前調査様式、現地調査様式及び整理様式は表 5.1 のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表 5.1 様式一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>様式</th> <th>様式名</th> <th>様式番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">事前調査様式</td> <td>魚類 既往文献一覧表</td> <td>事前調査様式 1</td> </tr> <tr> <td>魚類 助言・聞き取り調査票</td> <td>事前調査様式 3</td> </tr> <tr> <td>回遊性魚類の遡上・降河</td> <td>事前調査様式 4</td> </tr> <tr> <td>魚類へい死一覧表</td> <td>事前調査様式 5</td> </tr> <tr> <td>漁業実態調査票</td> <td>事前調査様式 6</td> </tr> <tr> <td>魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表</td> <td>事前調査様式 7</td> </tr> <tr> <td>漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図</td> <td>事前調査様式 8</td> </tr> <tr> <td>現地調査様式</td> <td>魚類 現地調査票 1</td> <td>現地調査様式 1</td> </tr> <tr> <td>魚類 現地調査票 2</td> <td>現地調査様式 2</td> </tr> <tr> <td>魚類 同定文献一覧表</td> <td>現地調査様式 3</td> </tr> <tr> <td>魚類 写真一覧表</td> <td>現地調査様式 4</td> </tr> <tr> <td>魚類 写真票</td> <td>現地調査様式 5</td> </tr> <tr> <td>魚類 標本管理一覧表</td> <td>現地調査様式 6</td> </tr> <tr> <td>魚類からみた重要な位置情報記録票</td> <td>現地調査様式 7</td> </tr> <tr> <td>魚類 調査実施状況一覧表</td> <td>現地調査様式 8</td> </tr> <tr> <td>魚類 調査地区位置図</td> <td>現地調査様式 9</td> </tr> <tr> <td>魚類 現地調査結果の概要</td> <td>現地調査様式 10</td> </tr> <tr> <td>その他の生物確認状況一覧表</td> <td>現地調査様式 11</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">整理様式</td> <td>魚類 重要種経年確認状況一覧表</td> <td>整理様式 1</td> </tr> <tr> <td>魚類 確認状況一覧表</td> <td>整理様式 2</td> </tr> <tr> <td>魚類 経年確認状況一覧表</td> <td>整理様式 3</td> </tr> <tr> <td>魚類 種名変更状況一覧表</td> <td>整理様式 4</td> </tr> <tr> <td>魚類 ダム湖環境エリア区分別確認状況一覧表</td> <td>整理様式 5</td> </tr> <tr> <td>魚類 確認種目録</td> <td>整理様式 6</td> </tr> <tr> <td>魚類 現地調査確認種について</td> <td>整理様式 7</td> </tr> <tr> <td>今回の調査全般に対するアドバイザー等の所見</td> <td>整理様式 8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※事前調査様式 2 はマニュアル改訂により廃止とした。</p>	様式	様式名	様式番号	事前調査様式	魚類 既往文献一覧表	事前調査様式 1	魚類 助言・聞き取り調査票	事前調査様式 3	回遊性魚類の遡上・降河	事前調査様式 4	魚類へい死一覧表	事前調査様式 5	漁業実態調査票	事前調査様式 6	魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	事前調査様式 7	漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	事前調査様式 8	現地調査様式	魚類 現地調査票 1	現地調査様式 1	魚類 現地調査票 2	現地調査様式 2	魚類 同定文献一覧表	現地調査様式 3	魚類 写真一覧表	現地調査様式 4	魚類 写真票	現地調査様式 5	魚類 標本管理一覧表	現地調査様式 6	魚類からみた重要な位置情報記録票	現地調査様式 7	魚類 調査実施状況一覧表	現地調査様式 8	魚類 調査地区位置図	現地調査様式 9	魚類 現地調査結果の概要	現地調査様式 10	その他の生物確認状況一覧表	現地調査様式 11	整理様式	魚類 重要種経年確認状況一覧表	整理様式 1	魚類 確認状況一覧表	整理様式 2	魚類 経年確認状況一覧表	整理様式 3	魚類 種名変更状況一覧表	整理様式 4	魚類 ダム湖環境エリア区分別確認状況一覧表	整理様式 5	魚類 確認種目録	整理様式 6	魚類 現地調査確認種について	整理様式 7	今回の調査全般に対するアドバイザー等の所見	整理様式 8
様式	様式名	様式番号																																																																																																																							
事前調査様式	魚類 既往文献一覧表	事前調査様式 1																																																																																																																							
	魚類 文献概要記録票	事前調査様式 2																																																																																																																							
	魚類 助言・聞き取り調査票	事前調査様式 3																																																																																																																							
	回遊性魚類の遡上・降河	事前調査様式 4																																																																																																																							
	魚類へい死一覧表	事前調査様式 5																																																																																																																							
	漁業実態調査票	事前調査様式 6																																																																																																																							
	魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	事前調査様式 7																																																																																																																							
	漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	事前調査様式 8																																																																																																																							
現地調査様式	魚類 現地調査票 1	現地調査様式 1																																																																																																																							
	魚類 現地調査票 2	現地調査様式 2																																																																																																																							
	魚類 同定文献一覧表	現地調査様式 3																																																																																																																							
	魚類 写真一覧表	現地調査様式 4																																																																																																																							
	魚類 写真票	現地調査様式 5																																																																																																																							
	魚類 標本管理一覧表	現地調査様式 6																																																																																																																							
	魚類からみた重要な位置情報記録票	現地調査様式 7																																																																																																																							
	魚類 調査実施状況一覧表	現地調査様式 8																																																																																																																							
	魚類 調査地区位置図	現地調査様式 9																																																																																																																							
	魚類 現地調査結果の概要	現地調査様式 10																																																																																																																							
	その他の生物確認状況一覧表	現地調査様式 11																																																																																																																							
整理様式	魚類 重要種経年確認状況一覧表	整理様式 1																																																																																																																							
	魚類 確認状況一覧表	整理様式 2																																																																																																																							
	魚類 経年確認状況一覧表	整理様式 3																																																																																																																							
	魚類 種名変更状況一覧表	整理様式 4																																																																																																																							
	魚類 ダム湖環境エリア区分別確認状況一覧表	整理様式 5																																																																																																																							
	魚類 確認種目録	整理様式 6																																																																																																																							
	魚類 現地調査確認種について	整理様式 7																																																																																																																							
	今回の調査全般に対するアドバイザー等の所見	整理様式 8																																																																																																																							
様式	様式名	様式番号																																																																																																																							
事前調査様式	魚類 既往文献一覧表	事前調査様式 1																																																																																																																							
	魚類 助言・聞き取り調査票	事前調査様式 3																																																																																																																							
	回遊性魚類の遡上・降河	事前調査様式 4																																																																																																																							
	魚類へい死一覧表	事前調査様式 5																																																																																																																							
	漁業実態調査票	事前調査様式 6																																																																																																																							
	魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	事前調査様式 7																																																																																																																							
	漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	事前調査様式 8																																																																																																																							
	現地調査様式	魚類 現地調査票 1	現地調査様式 1																																																																																																																						
魚類 現地調査票 2	現地調査様式 2																																																																																																																								
魚類 同定文献一覧表	現地調査様式 3																																																																																																																								
魚類 写真一覧表	現地調査様式 4																																																																																																																								
魚類 写真票	現地調査様式 5																																																																																																																								
魚類 標本管理一覧表	現地調査様式 6																																																																																																																								
魚類からみた重要な位置情報記録票	現地調査様式 7																																																																																																																								
魚類 調査実施状況一覧表	現地調査様式 8																																																																																																																								
魚類 調査地区位置図	現地調査様式 9																																																																																																																								
魚類 現地調査結果の概要	現地調査様式 10																																																																																																																								
その他の生物確認状況一覧表	現地調査様式 11																																																																																																																								
整理様式	魚類 重要種経年確認状況一覧表	整理様式 1																																																																																																																							
	魚類 確認状況一覧表	整理様式 2																																																																																																																							
	魚類 経年確認状況一覧表	整理様式 3																																																																																																																							
	魚類 種名変更状況一覧表	整理様式 4																																																																																																																							
	魚類 ダム湖環境エリア区分別確認状況一覧表	整理様式 5																																																																																																																							
	魚類 確認種目録	整理様式 6																																																																																																																							
	魚類 現地調査確認種について	整理様式 7																																																																																																																							
	今回の調査全般に対するアドバイザー等の所見	整理様式 8																																																																																																																							

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案																																		
5. 調査結果とりまとめ・考察	<p>5.2.2 事前調査様式の作成</p> <p>事前調査様式は「事前調査」において得られた情報、知見についてとりまとめる。とりまとめ内容は下表の通りである。</p> <p style="text-align: center;">表 5.2 事前調査様式の内容</p> <table border="1" data-bbox="359 453 1377 1184"> <thead> <tr> <th>様式名</th> <th>とりまとめ内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>魚類 既往文献一覧表</td> <td>事前調査で整理した調査区域及びその周辺における魚類に関する既往文献の一覧を作成する。</td> </tr> <tr> <td>魚類 文献概要記録票</td> <td>「魚類 既往文献一覧表」で整理した既往文献の概要を文献ごとに整理する。</td> </tr> <tr> <td>魚類 助言・聞き取り調査票</td> <td>学識経験者からの助言内容や「聞き取り調査」によって得られた情報を聞き取り相手ごとに記入する。</td> </tr> <tr> <td>回遊性魚類の遡上・降河</td> <td>回遊性の魚類について、既往事前調査結果等をもとに調査対象ダム及び周辺河川における遡上・降河に関する情報を整理する。</td> </tr> <tr> <td>魚類へい死一覧表</td> <td>既往資料をもとに調査対象ダム及び周辺河川における魚類浮上死の事例について整理する。</td> </tr> <tr> <td>漁業実態調査票</td> <td>調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権及び近年 5 か年の魚類の捕獲量、放流量(卵、稚魚、成魚)、種苗産地等について漁業協同組合ごとに記入する。</td> </tr> <tr> <td>魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表</td> <td>調査対象ダム湖及び周辺河川の放流場所、産卵場所、禁漁区間について整理する。</td> </tr> <tr> <td>漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図</td> <td>調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権の設定状況、主な漁業区間、放流場所、産卵場所、遊漁区間、禁漁区間と禁漁期間、観光利用などを、ダム湖流域概要図に整理する。</td> </tr> </tbody> </table>	様式名	とりまとめ内容	魚類 既往文献一覧表	事前調査で整理した調査区域及びその周辺における魚類に関する既往文献の一覧を作成する。	魚類 文献概要記録票	「魚類 既往文献一覧表」で整理した既往文献の概要を文献ごとに整理する。	魚類 助言・聞き取り調査票	学識経験者からの助言内容や「聞き取り調査」によって得られた情報を聞き取り相手ごとに記入する。	回遊性魚類の遡上・降河	回遊性の魚類について、既往事前調査結果等をもとに調査対象ダム及び周辺河川における遡上・降河に関する情報を整理する。	魚類へい死一覧表	既往資料をもとに調査対象ダム及び周辺河川における魚類浮上死の事例について整理する。	漁業実態調査票	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権及び近年 5 か年の魚類の捕獲量、放流量(卵、稚魚、成魚)、種苗産地等について漁業協同組合ごとに記入する。	魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	調査対象ダム湖及び周辺河川の放流場所、産卵場所、禁漁区間について整理する。	漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権の設定状況、主な漁業区間、放流場所、産卵場所、遊漁区間、禁漁区間と禁漁期間、観光利用などを、ダム湖流域概要図に整理する。	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献調査(調査概要の整理)を廃止する。(短期対応) (メリット) コスト縮減になる。(デメリット) 重要種、外来種、その他のトピックなどの文献情報を踏まえずに調査することになる可能性がある。(デメリットの緩和策) 聞き取り調査時に河川水辺の国勢調査アドバイザー等の専門家から最新の情報を提供頂き補完する。 その際、調査会社は、前回調査時の既往文献及びその後発行された文献で調査と関係ある文献の一覧をわかる範囲でとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。(短期対応) また、文献調査を廃止する代わりに、既往の文献調査結果(調査地点と確認種の情報)を簡単に参照できるデータベースを構築する。(中期対応) 	<p>5.2.2 事前調査様式の作成</p> <p>事前調査様式は「事前調査」において得られた情報、知見についてとりまとめる。とりまとめ内容は下表の通りである。</p> <p style="text-align: center;">表 5.2 事前調査様式の内容</p> <table border="1" data-bbox="2000 453 2837 1184"> <thead> <tr> <th>様式名</th> <th>とりまとめ内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>魚類 既往文献一覧表</td> <td>事前調査で整理した調査区域及びその周辺における魚類に関する既往文献の一覧を作成する。</td> </tr> <tr> <td>魚類 助言・聞き取り調査票</td> <td>学識経験者からの助言内容や「聞き取り調査」によって得られた情報を聞き取り相手ごとに記入する。</td> </tr> <tr> <td>回遊性魚類の遡上・降河</td> <td>回遊性の魚類について、既往事前調査結果等をもとに調査対象ダム及び周辺河川における遡上・降河に関する情報を整理する。</td> </tr> <tr> <td>魚類へい死一覧表</td> <td>既往資料をもとに調査対象ダム及び周辺河川における魚類浮上死の事例について整理する。</td> </tr> <tr> <td>漁業実態調査票</td> <td>調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権及び近年 5 か年の魚類の捕獲量、放流量(卵、稚魚、成魚)、種苗産地等について漁業協同組合ごとに記入する。</td> </tr> <tr> <td>魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表</td> <td>調査対象ダム湖及び周辺河川の放流場所、産卵場所、禁漁区間について整理する。</td> </tr> <tr> <td>漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図</td> <td>調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権の設定状況、主な漁業区間、放流場所、産卵場所、遊漁区間、禁漁区間と禁漁期間、観光利用などを、ダム湖流域概要図に整理する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※文献概要記録票はマニュアル改訂により廃止とした。</p>	様式名	とりまとめ内容	魚類 既往文献一覧表	事前調査で整理した調査区域及びその周辺における魚類に関する既往文献の一覧を作成する。	魚類 助言・聞き取り調査票	学識経験者からの助言内容や「聞き取り調査」によって得られた情報を聞き取り相手ごとに記入する。	回遊性魚類の遡上・降河	回遊性の魚類について、既往事前調査結果等をもとに調査対象ダム及び周辺河川における遡上・降河に関する情報を整理する。	魚類へい死一覧表	既往資料をもとに調査対象ダム及び周辺河川における魚類浮上死の事例について整理する。	漁業実態調査票	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権及び近年 5 か年の魚類の捕獲量、放流量(卵、稚魚、成魚)、種苗産地等について漁業協同組合ごとに記入する。	魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	調査対象ダム湖及び周辺河川の放流場所、産卵場所、禁漁区間について整理する。	漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権の設定状況、主な漁業区間、放流場所、産卵場所、遊漁区間、禁漁区間と禁漁期間、観光利用などを、ダム湖流域概要図に整理する。
様式名	とりまとめ内容																																				
魚類 既往文献一覧表	事前調査で整理した調査区域及びその周辺における魚類に関する既往文献の一覧を作成する。																																				
魚類 文献概要記録票	「魚類 既往文献一覧表」で整理した既往文献の概要を文献ごとに整理する。																																				
魚類 助言・聞き取り調査票	学識経験者からの助言内容や「聞き取り調査」によって得られた情報を聞き取り相手ごとに記入する。																																				
回遊性魚類の遡上・降河	回遊性の魚類について、既往事前調査結果等をもとに調査対象ダム及び周辺河川における遡上・降河に関する情報を整理する。																																				
魚類へい死一覧表	既往資料をもとに調査対象ダム及び周辺河川における魚類浮上死の事例について整理する。																																				
漁業実態調査票	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権及び近年 5 か年の魚類の捕獲量、放流量(卵、稚魚、成魚)、種苗産地等について漁業協同組合ごとに記入する。																																				
魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	調査対象ダム湖及び周辺河川の放流場所、産卵場所、禁漁区間について整理する。																																				
漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権の設定状況、主な漁業区間、放流場所、産卵場所、遊漁区間、禁漁区間と禁漁期間、観光利用などを、ダム湖流域概要図に整理する。																																				
様式名	とりまとめ内容																																				
魚類 既往文献一覧表	事前調査で整理した調査区域及びその周辺における魚類に関する既往文献の一覧を作成する。																																				
魚類 助言・聞き取り調査票	学識経験者からの助言内容や「聞き取り調査」によって得られた情報を聞き取り相手ごとに記入する。																																				
回遊性魚類の遡上・降河	回遊性の魚類について、既往事前調査結果等をもとに調査対象ダム及び周辺河川における遡上・降河に関する情報を整理する。																																				
魚類へい死一覧表	既往資料をもとに調査対象ダム及び周辺河川における魚類浮上死の事例について整理する。																																				
漁業実態調査票	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権及び近年 5 か年の魚類の捕獲量、放流量(卵、稚魚、成魚)、種苗産地等について漁業協同組合ごとに記入する。																																				
魚類 放流場所・産卵場所・禁漁区間等整理表	調査対象ダム湖及び周辺河川の放流場所、産卵場所、禁漁区間について整理する。																																				
漁業・遊漁実態及び主要魚種の総括図	調査対象ダム湖及び周辺河川の漁業権の設定状況、主な漁業区間、放流場所、産卵場所、遊漁区間、禁漁区間と禁漁期間、観光利用などを、ダム湖流域概要図に整理する。																																				

魚類 既往文献一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	ダム名	調査年度
〇〇地方整備局	■ ■ダム管理所	▲ ▲川	▲ ▲ダム	20XX

文献 No.	文献名	著者名	発行年	発行元	入手先
1	▲ ▲川の魚	山田太郎	20xx	〇〇出版	
2	平成〇年度 河川水辺の国勢調査報告書	〇〇河川事務所	20xx	-	〇〇河川事務所
3	貯砂ダム魚道検討調査結果報告書	▲ ▲ダム管理所	20xx		▲ ▲ダム管理所
4	〇〇村誌 自然環境編	〇〇村誌編集委員会	20xx	〇〇社	
:	:	:	:	:	:

魚類 文献概要記録票

地方整備局等名	事務所等名	水系名	ダム名	調査年度
〇〇地方整備局	■ ■ダム管理所	▲ ▲川	▲ ▲ダム	20XX

文献 No.	文献名	著者名	発行年	発行元
1	▲ ▲川の魚	山田太郎	20xx	〇〇出版

調査実施状況

平成〇年から〇年にかけて、▲ ▲川河口から▲ ▲ダム上流の8地点において、年1回継続的にモニタリング調査を実施した。主に投網、タコ網、刺網により捕獲し、捕獲した全個体について体長を計測した。また、・・・

廃止

調査結果の概要

調査の結果、〇目〇科〇種の魚類が確認された。最も多くの種類が確認されたのは河口部の st.1 で〇種であった。また、経年的な変化をみると、各地点でも種数に大きな変化は見られないが、▲ ▲ダム建設後に st.4 及び st.5 においてオオクワガタが継続して確認されるようになった。

重要種に関する情報

環境省レッドデータブックに掲載された種は確認されていないが、st.8 において〇〇県レッドデータブック希少種のニッコウイワナが確認されている。

魚類 助言・聞き取り調査票

地方整備局等名	事務所等名	水系名	ダム名	調査年度
〇〇地方整備局	■■ダム管理所	▲▲川	▲▲ダム	20XX
聞き取り No.	1			
相手	氏名	所 属		
	山本 祥之	〇〇県立大学生活科学研究センター		
当方	氏名	所 属		
	山田太郎	▲▲ダム管理所管理課		
	鮎山 鱒男	㈱〇〇研究所		
日時	20XX年 〇月 〇日 〇時 〇分 ~ 〇時 〇分			
場所	〇〇県立大学生活科学研究センター生物学的研究室内			
助言の内容				
<p>(既往文献) 〇〇川の〇〇の生態を把握するのに適切な文献として、19xx年に発表された〇〇大学水産学部の〇〇氏の論文が〇〇の19xx年代における数種類構成の変動に関する内容を記載しているため必ず参考にする必要がある。</p> <p>(調査地区) 計画の通りでよいと思われる。</p> <p>(調査時期) 標高が高いため、調査時期は平野部と若干遅くてもよいのではないかと。</p> <p>(調査方法) はえなわによる調査を行う場合、餌としてミミズ等をよく用いるが、周辺では夜行性の〇〇に合わせてドジョウ等を餌に使用するのもよいようだ。</p>				
魚類の生息状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ ▲▲川におけるサツキマスの生息状況について あまり見かけなくなったが△△川では19XX年に生息が確認されている ・ ▲▲川における魚類の分布状況について ▲▲川合流点下流部の礫地帯ではニジマスとスズキが混棲しているとのことである。 ・ ▲▲ダムでは放流アユが陸封化されており、10月下旬に流入河川で産卵がみられるようである。 <p>※:回遊魚の遡上・降下時期や外来種の生息状況も聞き取る。</p>				
重要種に関する情報				
<ul style="list-style-type: none"> ・ ▲▲川におけるニッコウイワナの生息状況 ▲▲川上流の〇〇橋付近で、ニッコウイワナを確認した。 				

河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] (基本調査) マニュアル (案) (魚類 5/5)

青字：現行マニュアルの中で、改定案では削除された部分を示す。
赤字：改定案の中で、現行マニュアルから追加・変更した部分を示す。

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案
3. 現地調査計画	<p>3.5 調査時期及び回数の設定</p> <p>調査時期及び回数は、基本的に全体調査計画に従って設定するものとし、春から秋にかけて 2 回以上実施する。</p> <p>ただし、事前調査及び現地踏査の結果、調査実施当該年度における気象条件や魚類の遡上状況等を踏まえ、適切な時期に設定し直してもよい。調査時期を再設定した場合は、調査時期の設定根拠について、巻末の「河川水辺の国勢調査 全体調査計画策定の手引き」を参考に整理しておく。</p> <p>また、調査時期の設定にあたって留意すべき事項は以下のとおりである。</p> <p>(ア)春季から秋季にかけては、水温が上昇して魚類の活動が活発となり、採捕に適した時期である。春季や秋季は、多くの回遊魚の遡上時期にあたり、汽水域・沿岸域で育った稚魚の遡上や産卵のために河川に遡上する親魚の確認に適している。また、夏季から秋季にかけては、仔稚魚期を汽水域で過ごす汽水・海水魚が侵入してくる時期である。</p> <p>(イ)ある一時期だけ河川に遡上・侵入してくる魚類(回遊魚や汽水・海水魚)をできるだけ多く確認できる時期を設定する。</p> <p>(ウ)種によって確認に適した時期(回遊魚の遡上時期等)が大きく異なる場合には、確認に適した地区において調査回数を増やす等してもよい。</p>	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3回以上実施しているものについて、特別の理由がない限り、原則2回とする。(短期対応) 	<p>3.5 調査時期及び回数設定</p> <p>調査時期及び回数は、春から秋にかけて原則2回実施する。</p> <p>調査時期の設定にあたっては、以下の留意すべき事項を踏まえ、調査区域内で最も多くの魚類(種数・個体数)が確認できる時期とする。</p> <p>(ア)春季から秋季にかけては、水温が上昇して魚類の活動が活発となり、採捕に適した時期である。</p> <p>(イ)春季や秋季は、多くの回遊魚の遡上時期にあたり、汽水域・沿岸域で育った稚魚の遡上や産卵のために河川に遡上する親魚の確認に適している。特にダム湖において陸封化の可能性あるアユ等の回遊魚については、事前に遡上時期を確認しておき、時期を逸することのないようにする。</p> <p>なお、種によって確認に適した時期(回遊魚の遡上時期等)が大きく異なるなど、調査時期を追加する必要がある場合は、その設定根拠を記録する。(現地調査様式 8-1)</p>

河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] (基本調査) マニュアル (案) (動植物プランクトン)

青字：現行マニュアルの中で、改定案では削除された部分を示す。
赤字：改定案の中で、現行マニュアルから追加・変更した部分を示す。

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案																																																																										
I 概要編	<p>【I 概要編】</p> <p>2.2 調査項目及び調査頻度</p> <p>基本調査は表 2.1 に示す 8 項目の調査から構成されており、魚類調査、底生動物調査、動植物プランクトン調査、ダム湖環境基図作成調査については、それぞれのダムで 5 年に 1 回、他の項目については 10 年に 1 回実施することとする。ただし、洪水等により現地の地形や植生の状況が大きく変化するなど、環境が激変した場合は、必要に応じて調査頻度を増やすなど、河川環境の変化を適切に把握できるように調査頻度を変更してもよい。また、新たに管理に移行したダム等における各調査項目 1 回目の調査は、従来通り全項目 5 年に 1 回程度の頻度で調査が実施されるように調査頻度を設定するものとし、1 巡の調査終了以降は表 2.1 に示す調査頻度に移行する。</p> <p>なお、基本調査の実施にあたっては、より適切で効率的な調査を実施するために、水系一貫の視点や調査項目間の関連性を踏まえた視点等から策定された「全体調査計画」を策定したうえで実施するものとする。</p> <p style="text-align: center;">表 2.1 調査項目及び調査頻度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>調査項目</th> <th>調査対象</th> <th>基本的な調査頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="8">生物調査</td> <td>魚類調査</td> <td>魚類</td> <td>5 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>底生動物調査</td> <td>水生昆虫を主体とし、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類等</td> <td>5 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>動植物プランクトン調査</td> <td>動物プランクトン 植物プランクトン</td> <td>5 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>植物調査 (植物相)</td> <td>維管束植物 (シダ植物及び種子植物)</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>鳥類調査</td> <td>鳥類</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>両生類・爬虫類・哺乳類調査</td> <td>両生類、爬虫類、哺乳類</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>陸上昆虫類等調査</td> <td>陸上昆虫類、クモ目</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ダム湖環境基図作成調査</td> <td>植生分布、河川の物理環境等</td> <td>5 年に 1 回</td> </tr> </tbody> </table>	No.	調査項目	調査対象	基本的な調査頻度	1	生物調査	魚類調査	魚類	5 年に 1 回	2	底生動物調査	水生昆虫を主体とし、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類等	5 年に 1 回	3	動植物プランクトン調査	動物プランクトン 植物プランクトン	5 年に 1 回	4	植物調査 (植物相)	維管束植物 (シダ植物及び種子植物)	10 年に 1 回	5	鳥類調査	鳥類	10 年に 1 回	6	両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類、爬虫類、哺乳類	10 年に 1 回	7	陸上昆虫類等調査	陸上昆虫類、クモ目	10 年に 1 回	8	ダム湖環境基図作成調査	植生分布、河川の物理環境等	5 年に 1 回	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動植物プランクトン調査は、定期水質調査に統合することを基本とし、調査頻度は現行のものを踏襲するもの(短期対応)とするが、そのデータの検定(スクリーニング)のあり方及び分析・活用については、更に検討した上で対応を定めていくものとする。(中期対応) (メリット) コスト縮減になる。 (デメリット) これまでは、河川水辺の国勢調査においてはスクリーニング委員会に諮り、種名等の精査を実施しているが、水質調査においては、そのような仕組みがないため、同定精度に問題が生じる可能性がある。 	<p>【I 概要編】</p> <p>2.2 調査項目及び調査頻度</p> <p>基本調査は表 2.1 に示す 8 項目の調査から構成されており、魚類調査、底生動物調査、動植物プランクトン調査、ダム湖環境基図作成調査については、それぞれのダムで 5 年に 1 回、他の項目については 10 年に 1 回実施することとする。動植物プランクトンについては、「改訂版ダム貯水池水質調査要領」に基づく定期水質調査における動植物プランクトン調査のデータを利用するものとする。ただし、洪水等により現地の地形や植生の状況が大きく変化するなど、環境が激変した場合は、必要に応じて調査頻度を増やすなど、河川環境の変化を適切に把握できるように調査頻度を変更してもよい。また、新たに管理に移行したダム等における各調査項目 1 回目の調査は、従来通り全項目 5 年に 1 回程度の頻度で調査が実施されるように調査頻度を設定するものとし、1 巡の調査終了以降は表 2.1 に示す調査頻度に移行する。</p> <p>なお、基本調査の実施にあたっては、より適切で効率的な調査を実施するために、水系一貫の視点や調査項目間の関連性を踏まえた視点等から策定された「全体調査計画」を策定したうえで実施するものとする。</p> <p style="text-align: center;">表 2.1 調査項目及び調査頻度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>調査項目</th> <th>調査対象</th> <th>基本的な調査頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="8">生物調査</td> <td>魚類調査</td> <td>魚類</td> <td>5 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>底生動物調査</td> <td>水生昆虫を主体とし、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類等</td> <td>5 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>動植物プランクトン調査</td> <td>動物プランクトン 植物プランクトン</td> <td>5 年に 1 回 定期水質調査のデータを利用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>植物調査 (植物相)</td> <td>維管束植物 (シダ植物及び種子植物)</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>鳥類調査</td> <td>鳥類</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>両生類・爬虫類・哺乳類調査</td> <td>両生類、爬虫類、哺乳類</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>陸上昆虫類等調査</td> <td>陸上昆虫類、クモ目</td> <td>10 年に 1 回</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ダム湖環境基図作成調査</td> <td>植生分布、河川の物理環境等</td> <td>5 年に 1 回</td> </tr> </tbody> </table>	No.	調査項目	調査対象	基本的な調査頻度	1	生物調査	魚類調査	魚類	5 年に 1 回	2	底生動物調査	水生昆虫を主体とし、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類等	5 年に 1 回	3	動植物プランクトン調査	動物プランクトン 植物プランクトン	5 年に 1 回 定期水質調査のデータを利用	4	植物調査 (植物相)	維管束植物 (シダ植物及び種子植物)	10 年に 1 回	5	鳥類調査	鳥類	10 年に 1 回	6	両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類、爬虫類、哺乳類	10 年に 1 回	7	陸上昆虫類等調査	陸上昆虫類、クモ目	10 年に 1 回	8	ダム湖環境基図作成調査	植生分布、河川の物理環境等	5 年に 1 回
No.	調査項目	調査対象	基本的な調査頻度																																																																										
1	生物調査	魚類調査	魚類	5 年に 1 回																																																																									
2		底生動物調査	水生昆虫を主体とし、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類等	5 年に 1 回																																																																									
3		動植物プランクトン調査	動物プランクトン 植物プランクトン	5 年に 1 回																																																																									
4		植物調査 (植物相)	維管束植物 (シダ植物及び種子植物)	10 年に 1 回																																																																									
5		鳥類調査	鳥類	10 年に 1 回																																																																									
6		両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類、爬虫類、哺乳類	10 年に 1 回																																																																									
7		陸上昆虫類等調査	陸上昆虫類、クモ目	10 年に 1 回																																																																									
8		ダム湖環境基図作成調査	植生分布、河川の物理環境等	5 年に 1 回																																																																									
No.	調査項目	調査対象	基本的な調査頻度																																																																										
1	生物調査	魚類調査	魚類	5 年に 1 回																																																																									
2		底生動物調査	水生昆虫を主体とし、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類等	5 年に 1 回																																																																									
3		動植物プランクトン調査	動物プランクトン 植物プランクトン	5 年に 1 回 定期水質調査のデータを利用																																																																									
4		植物調査 (植物相)	維管束植物 (シダ植物及び種子植物)	10 年に 1 回																																																																									
5		鳥類調査	鳥類	10 年に 1 回																																																																									
6		両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類、爬虫類、哺乳類	10 年に 1 回																																																																									
7		陸上昆虫類等調査	陸上昆虫類、クモ目	10 年に 1 回																																																																									
8		ダム湖環境基図作成調査	植生分布、河川の物理環境等	5 年に 1 回																																																																									
V 動植物プランクトン調査編	<p>【V 動植物プランクトン調査編】</p> <p>3.3 調査時期及び回数</p> <p>植物プランクトンについては、ダム水質調査要領に基づく定期調査における水質調査結果のデータと比較可能なように、水質調査と同時にサンプルを採取するものとし、原則として 1 回/月とする。</p> <p>動物プランクトンについては、原則として四季に調査を実施することとし、最低でも春の循環期と夏の停滞期に入って水温躍層が形成された時期の年 2 回は実施するものとする。ただし、流入・流出の状況や取水口の位置により成層しないダム湖等もあるため、当該ダムの特性・運用状況にも配慮し、季節変動が把握できるような時期に調査時期を設定する。</p> <p>なお、動物プランクトンの現地調査においても、水質調査結果のデータと比較解析が可能なように「ダム水質調査要領」に基づく水質調査と同時に実施し、サンプルを採取するものとする。特に植物プランクトンと比較検討が必要な場合は、植物プランクトン調査とあわせて毎月実施してもよい。</p> <p>もし、水質調査におけるプランクトン調査結果のデータを、河川水辺の国勢調査のデータとして利用できる場合には、調査は実施しなくてよい。</p>	<p>【V 動植物プランクトン調査編】</p> <p>3.3 調査時期及び回数</p> <p>動植物プランクトンについては、「改訂版ダム貯水池水質調査要領」に基づく定期水質調査における動植物プランクトン調査のデータを、河川水辺の国勢調査のデータとして利用するものとする。</p> <p>植物プランクトンについては原則として 1 回/月とする。動物プランクトンについては原則として四季、最低でも春の循環期と夏の停滞期に入って水温躍層が形成された時期の年 2 回とする。ただし、流入・流出の状況や取水口の位置により成層しないダム湖等もあるため、当該ダムの特性・運用状況にも配慮し、季節変動が把握できるような時期とする。</p> <p>なお、動物プランクトン調査を行う際には、同時期の植物プランクトンと比較検討が可能なように、植物プランクトン調査と時期をあわせるようにする。</p>																																																																											
3. 現地調査計画																																																																													

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案
1. 調査概要	<p>1.4 調査内容</p> <p>本調査では、現地調査を中心に文献調査等も行う。植生調査については、空中写真等から判読した下図を用いて現地踏査により確認することを基本とし、新たに記録された植生については群落組成調査を実施する。また、河川調査については、河川形態、水辺の環境及び流入河川の状況を、構造物調査では、護岸や河川横断構造物の状況などを現地踏査により確認する。</p>	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム湖における構造物は、ダム完成後に特別の対策が必要な場合以外は、新たに構造物を設置したりするなどの変化が見られないと考えられる。 河川水辺の国勢調査では、5年毎のダム湖環境基図作成調査と合わせ構造物調査（文献調査と現地調査）を実施してきたが、実際にはあまり変化がない場合が多いと考えられる。 このため、前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事が無い場合は、前回の構造物情報をそのまま活用すればよいと考えられるため、構造物調査（文献調査、現地調査）を省略するものとする。（短期対応） <p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献調査（調査概要の整理）を廃止する。（短期対応） <p>（メリット）</p> <ul style="list-style-type: none"> コスト縮減になる。 <p>（デメリット）</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要種、外来種、その他のトピックなどの文献情報を踏まえずに調査することになる可能性がある。 <p>（デメリットの緩和策）</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き取り調査時に河川水辺の国勢調査アドバイザー等の専門家から最新の情報を提供頂き補完する。 その際、調査会社は、前回調査時の既往文献及びその後に発行された文献で調査と関係ある文献の一覧をわかる範囲でとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。（短期対応） また、文献調査を廃止する代わりに、既往の文献調査結果（調査地点と確認種の情報）を簡単に参照できるデータベースを構築する。（中期対応） 	<p>1.4 調査内容</p> <p>本調査では、現地調査を中心に聞き取り調査も行う。植生調査については、空中写真等から判読した下図を用いて現地踏査により確認することを基本とし、新たに記録された植生については群落組成調査を実施する。また、河川調査については、河川形態、水辺の環境及び流入河川の状況を、構造物調査では、護岸や河川横断構造物の状況などを現地踏査により確認する。</p> <p>なお、これまでに河川水辺の国勢調査が実施されたダムにおいては、前回調査以降の状況について、特に注意して把握し、前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事が無い場合は、前回の構造物情報をそのまま活用し、構造物調査（現地調査）を省略する。</p>

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案
2. 事前調査	<p>現地調査を行う前に、既往文献を整理するとともに、聞き取り調査を実施することにより、調査区域における植生の状況や河川形態を中心とした諸情報をとりまとめる。</p> <p>現地調査を年度初めに実施する場合には、事前調査を現地調査実施の前年度に行うと、現地調査を円滑に実施しやすい。</p> <p>また、文献収集及び聞き取り相手の選定にあたっては、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の学識経験者の助言を得るようにする。</p> <p>なお、これまでに河川水辺の国勢調査が実施されたダムにおいては、前回調査以降の状況について、特に注意して整理、把握する。</p> <p>2.1 文献調査</p> <p>文献調査では、既往の河川水辺の国勢調査成果（植生図）、河川水辺総括資料、ダム等管理フォローアップ年次報告書・定期報告書、最新の空中写真や地形図、その他の文献等を収集し、調査区域の植生分布や地形、河川形態等の状況等の情報を中心に整理する。</p> <p>なお、文献の収集にあたっては、可能な限り原典（コピーでも可）で収集するものとする。ただし、前回調査を実施している場合（平成6年度版調査マニュアルでは、植生図調査は「植物調査」の中で行われているので、注意すること）は、前回調査以降の文献のみを収集すればよい。収集した文献及び報告書について、下記の項目を整理する。（事前調査様式1及び2）</p> <p>(ア)収集した文献の文献名、著者名、発行年、発行元、入手先(絶版等により書店等で購入できなかった場合)を整理する。</p> <p>(イ)文献の概要として、調査実施状況（現地調査の時期、場所、回数等、文献調査の場合は整理の対象とした文献等）、調査結果の概要、重要種に関する情報を整理する。なお、重要種の確認位置が特定できる情報に関しては、重要種の保全上、取り扱いに注意する必要があるため、「調査結果の概要」とは区別して整理する。</p> <p>2.2 聞き取り調査</p> <p>聞き取り調査では、河川水辺の国勢調査アドバイザーをはじめとする学識経験者等専門家に聞き取りを行い、調査区域内の植生の状況、重要種・特定外来生物の生育状況、確認しやすい時期及び河川形態等についての情報を中心に整理する。</p> <p>聞き取り先は、調査区域及びその周辺の実態に詳しい機関や個人（河川水辺の国勢調査アドバイザー、博物館、動植物園、大学、専門家、学校の教員、各種愛好会・同好会等）を対象とし、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の助言を得ながら聞き取り先を選定する。</p> <p>また、聞き取りに際しては、前回の河川水辺の国勢調査の結果等をあらかじめ把握し、できるだけ前回調査以降の状況等について知見が得られるようにする。</p> <p>学識経験者等専門家からの助言内容や聞き取り調査で得られた情報・知見について、下記の項目を整理する。（事前調査様式3）</p> <p>(ア)現地調査に対する助言の内容：既往調査文献の有無、調査地区・時期の設定、調査方法等に対する助言の内容を記録する。</p> <p>(イ)植生・河川形態の状況：調査区域及びその周辺における植生の状況、特定外来生物の生育状況、確認しやすい時期、河川形態の状況等について得られた情報を記録する。</p> <p>(ウ)重要種に関する情報：重要種の生育状況に関して得られた情報について記録する。なお、重要種の確認位置が特定できる情報に関しては、重要種の保全上、取り扱いに注意する必要があるため、「植生・河川形態の状況」とは区別して整理する。</p>	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム湖における構造物は、ダム完成後に特別の対策が必要な場合以外は、新たに構造物を設置したりするなどの変化が見られないと考えられる。 河川水辺の国勢調査では、5年毎のダム湖環境基図作成調査と合わせ構造物調査（文献調査と現地調査）を実施してきたが、実際にはあまり変化がない場合が多いと考えられる。 このため、前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事がない場合は、前回の構造物情報をそのまま活用すればよいと考えられるため、構造物調査（文献調査、現地調査）を省略するものとする。（短期対応） <p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献調査（調査概要の整理）を廃止する。（短期対応） （メリット） コスト縮減になる。（デメリット） 重要種、外来種、その他のトピックなどの文献情報を踏まえずに調査することになる可能性がある。（デメリットの緩和策） 聞き取り調査時に河川水辺の国勢調査アドバイザー等の専門家から最新の情報を提供頂き補完する。 その際、調査会社は、前回調査時の既往文献及びその後に発行された文献で調査と関係ある文献の一覧をわかる範囲でとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。（短期対応） また、文献調査を廃止する代わりに、既往の文献調査結果（調査地点と確認種の情報）を簡単に参照できるデータベースを構築する。（中期対応） 	<p>現地調査を行う前に、聞き取り調査を実施することにより、調査区域における植生の状況や河川形態を中心とした諸情報をとりまとめる。</p> <p>現地調査を年度初めに実施する場合には、事前調査を現地調査実施の前年度に行うと、現地調査を円滑に実施しやすい。</p> <p>また、聞き取り相手の選定にあたっては、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の学識経験者の助言を得るようにする。</p> <p>なお、これまでに河川水辺の国勢調査が実施されたダムにおいては、前回調査以降の状況について、特に注意して把握し、前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事がない場合は、前回の構造物情報をそのまま活用し、構造物調査(現地調査)を省略する。</p> <p>2.1 聞き取り調査</p> <p>聞き取り調査では、河川水辺の国勢調査アドバイザーをはじめとする学識経験者等専門家に聞き取りを行い、調査区域の植生の状況、重要種・特定外来生物の生育状況、確認しやすい時期及び河川形態等についての情報を中心に整理する。</p> <p>聞き取り先は、調査区域周辺の実態に詳しい機関や個人（博物館、動植物園、大学、研究機関、専門家、学校の教員、各種愛好会・同好会等）を対象とし、河川水辺の国勢調査アドバイザー等の助言を得ながら聞き取り先を選定する。</p> <p>また、聞き取りに際しては、前回の河川水辺の国勢調査の結果、前回調査時に参考とした既往文献及びその後に発行された文献の一覧(事前調査様式1)等を持参し、聞き取り調査の効率化を図るとともに、できるだけ前回調査以降の状況等について知見が得られるようにする。</p> <p>なお、文献の一覧には、既往の河川水辺の国勢調査成果、河川水辺総括資料、ダム等管理フォローアップ年次報告書・定期報告書等についても収集・整理するものとする。また、前回調査以降に出版・発行された文献等についてはインターネット等の文献検索サービス（CiNii（国立情報学研究所）、JST（科学技術振興機構）等）も活用し、収集・整理するものとする。</p> <p>学識経験者等専門家からの助言内容や聞き取り調査で得られた情報・知見について、下記の項目を整理する。（事前調査様式3）</p> <p>(ア)現地調査に対する助言の内容：既往調査文献の有無、調査地区・時期の設定、調査方法等に対する助言の内容を記録する。</p> <p>(イ)植生・河川形態の状況：調査区域及びその周辺における植生の状況、特定外来生物の生育状況、確認しやすい時期、河川形態の状況等について得られた情報を記録する。</p> <p>(ウ)重要種に関する情報：重要種の生育状況に関して得られた情報について記録する。なお、重要種の確認位置が特定できる情報に関しては、重要種の保全上、取り扱いに注意する必要があるため、「植生・河川形態の状況」とは区別して整理する。</p>

項目	現行 H18 マニュアル	見直し方針(案)等	改定案
4. 現地調査	<p>4.3 水域（構造物）調査</p> <p>護岸や砂防ダム、堰などの河川横断工作物の位置・緒元等を既存の資料をもとに整理し、現地調査において現況を確認する。なお、流入河川流入部にある樋門・樋管については、『4.2 水域（河川）調査』の「流入支川」で整理する。</p>	<p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム湖における構造物は、ダム完成後に特別の対策が必要な場合以外は、新たに構造物を設置したりするなどの変化が見られないと考えられる。 河川水辺の国勢調査では、5年毎のダム湖環境基図作成調査と合わせ構造物調査（文献調査と現地調査）を実施してきたが、実際にはあまり変化がない場合が多いと考えられる。 このため、前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事が無い場合は、前回の構造物情報をそのまま活用すればよいと考えられるため、構造物調査（文献調査、現地調査）を省略するものとする。（短期対応） <p>【見直し方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献調査（調査概要の整理）を廃止する。（短期対応） <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> コスト縮減になる。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要種、外来種、その他のトピックなどの文献情報を踏まえずに調査することになる可能性がある。 <p>(デメリットの緩和策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き取り調査時に河川水辺の国勢調査アドバイザー等の専門家から最新の情報を提供頂き補完する。 その際、調査会社は、前回調査時の既往文献及びその後に発行された文献で調査と関係ある文献の一覧をわかる範囲でとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。（短期対応） また、文献調査を廃止する代わりに、既往の文献調査結果（調査地点と確認種の情報）を簡単に参照できるデータベースを構築する。（中期対応） 	<p>4.3 水域（構造物）調査</p> <p>護岸や砂防ダム、堰などの河川横断工作物の位置・緒元等を既存の資料をもとに整理し、現地調査において現況を確認する。なお、流入河川流入部にある樋門・樋管については、『4.2 水域（河川）調査』の「流入支川」で整理する。</p> <p>なお、これまでに河川水辺の国勢調査が実施されたダムにおいては、前回調査以降の状況について、特に注意して把握し、前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事が無い場合は、前回の構造物情報をそのまま活用し、構造物調査(現地調査)を省略する。</p>